

# ベルーフ卒業生 COVID-19の影響についてのヒアリング調査結果

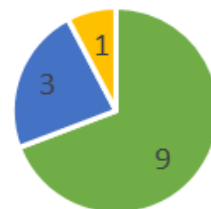
2020年5月21日  
就労移行支援事業所ベルーフ

ヒアリング期間：2020年4月15日～5月20日  
ヒアリング方法：オンライン面談（1人あたり20～60分）  
回答者：13人

## 1. 勤務形態の変化

まず勤務形態について聞きました。完全在宅勤務が最も多く、次に時差通勤とテレワークの併用となりました。部署ごとにシフトを組んで決まった曜日に数名ずつ出社する輪番通勤や、午前出社と午後在宅の組み合わせという会社もありました。

完全テレワーク（在宅勤務）	9人
時差・輪番通勤とテレワーク併用	3人
特になし	1人



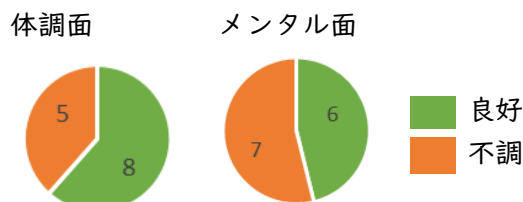
## 2. 業務内容の変化

次に、勤務形態が変わったことで携わる業務の内容に変化があったかについて聞きました。「変化は無い」と答えた9人のうち、8人は専門職に就いています。「変化があった」と答えた4人のうち、専門職に就いているのは1人です。このことから、社会や企業の状況変化に影響を受けにくいのは、専門職であることがわかります。



## 3. 体調、メンタル面への影響と通院状況

個々のヒアリング時期にも依りますが、大きくバランスを崩している人は少なかったです。睡眠リズムの乱れ（寝つきが悪い、中途覚醒等）が最も多く、主治医と薬の調整をしている人もいました。通院は、普段通りクリニックへ行く人も電話診療としている人もいました。薬については、かかりつけ薬局からの宅配や、クリニックから近所の薬局へ処方箋発行をしてもらって受け取る等、それぞれの対応をとっているそうです。



## 4. テレワークのメリットとデメリット

最後に、テレワークを行っている12人に、メリットとデメリットについて聞きました。

メリットとしては、「通勤が無いので楽」が全員一致の回答でした。そのほか、「朝遅くまで寝ていられる」（6人）「外出しなくて良いので感染の不安が減った」（5人）もありました。

デメリットについて、「質問の機会が減り業務がやり辛い」と答えた5人のうち4人が専門職に就いています。対象の回答者12人中専門職に就いているのは9人ですが、特にデメリットと感じていない5人に尋ねてみたところ、テレワーク以前から遠隔地のチームメイトとやりとりしながら業務に当たってきたため、特に不便は感じないとのことでした。専門職以外の仕事に就いている4人からは、「人と話す機会が減って寂しい」という表現で聞かれました。いずれも人との関わりの減少をデメリットに感じている人が多いことがわかります。

## 5. まとめ

ベルーフの卒業生の多くは、障害者雇用枠で、システム開発やデータ管理、財務、Webデザイン等の専門職に就いています。合理的配慮は受けますが、業務で果たす役割は一般社員と変わらないため、給与や福利厚生等の待遇はほぼ同じです。その分本人の努力は要しますが、やりがいも大きく感じながら働いています。

今回のヒアリングで改めて認識できたのは、COVID-19のような、企業側も予想できない事態の中でも、担当業務や仕事の仕方に変化が少なく、心身への影響を最小限にできる働き方としても専門職は有益であるということでした。COVID-19以後の企業活動は大きく変化していくと思います。専門職で働く障害者の状況について、今後企業側のヒアリングもあわせて実施し、引き続き情報を発信していきたいと考えております。 以上